

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット / 2階)

事業所番号	2791400076		
法人名	医療法人神明会		
事業所名	グループホーム ロ・スカークおおまだに		
所在地	大阪府箕面市粟生間谷西3-5-7		
自己評価作成日	令和3年11月23日	評価結果市町村受理日	令和4年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームならではのできることを求め、個々のケアに重点を置いて取り組んでいます。計画作成担当者、リーダー、居室担当を中心にその方より良い生活ペース、活気ある、楽しみのある毎日が送れるようにケアに当たっています。また月二回の往診、高齢者には特に重要な歯科の往診も対応させていただき、介護、医療との連携体制は充実しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は、病院を母体として2002年に設立され、箕面市など大阪府北部を中心に、病院・介護施設・保育園などを数多く展開している。当事業所は、のどかな田園も広がる緑豊かな所に2009年に開設された。デイサービスセンターと住宅型有料老人ホームを併設し、合同避難訓練・リーダー会議・食事作りや看護師の巡回などで連携している。今年4月から、毎月の月・金曜日を手作り昼食の日とし、器具の準備、段取り、食材の調達、調理まで一から取り組んでいる。コロナ禍の中でも、利用者・家族にリモート面会やパーティション越しの面会をしてもらい、利用者個々の写真・コメントを毎月家族に送付し、LINEで写真を送って様子を伝え喜ばれている。母体が病院で看護師が施設に駐在しているので医療連携が良く、看取りも数多く経験して、利用者・家族の安心を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(2階 / 2ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「愛・奉仕・共感」をもとに施設での事業所理念「共に寄り添いながら楽しく暮らせるよう、その人が持っている能力を活かしてもらえる支援と、個々の思いを大切にしたケアを行います」を掲げております。少しずつですが、根付き始めています。	法人理念と事業所理念を各フロアの入口トリピングの目に付く所に掲示し周知している。半年に1回の職員面談時に、法人理念の理解と実践を確認している。利用者をゲスト(お客様)として接することを「奉仕」と捉え、共に過ごす家族と思って常に接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への外出、並びに地域ケア会議がコロナ禍によって実施、開催されておられません。	以前は、各種ボランティアの受け入れ、中学生のプラスバンドや体験学習の受け入れなどを行っていたが、コロナ禍の今は中止している。施設者の行方を連絡してくれた自転車屋に挨拶に伺い、今後付き合いを広げたいと思っている。コロナ禍が収束すれば、まずボランティアの受け入れを再開してレクレーションを充実したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献を兼ね年に一度の文化祭での交流を計画しておりましたが、コロナ禍により実施できていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催をしておりましたが、コロナ禍により、議事録での報告を実施しております。	コロナ禍のため、令和2年3月以降会議は書面開催として年6回行い、行事・利用者の様子・人事などの報告書をメンバー(家族代表・市広域福祉課・地域包括支援センター・箕面認知症家族会)に送付している。議事録と外部評価結果は、フロアの入口に置いて開示している。	今後は、事故・ヒヤリハット、研修なども含めたより詳しい報告書を作成し、意見・要望の返信用紙も同封のうえメンバーに送付して意見収集し、出された意見と事業所の対応を記載した議事録を全家族も含めて配布することを望む。また、地域代表や知見者などに働きかけて、メンバーの充実を望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	箕面市広域福祉課、介護認定部署へ電話にて報告相談をさせて頂いております。	市広域福祉課とは、重大事故の報告、要員配置の相談などで関係している。事業所が要請して、市広域福祉課職員と感染対策の看護師に来てもらい、コロナ対策の現状を確認し指導してもらっている。市職員・地域包括支援センター職員も参加する市グループホーム連絡会が今年12月から再開され、管理者が参加した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(2階 / 2ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の実施にて身体拘束に対する意識付けを実施しています。現在身体拘束の実施はありません。行わないケアの実践に努めています。現在身体拘束の実例はありません。	「身体拘束適正化のための指針」「身体拘束廃止マニュアル」を作成し、3か月毎に適正化委員会を開催している。入社時と年2回研修を行って全職員が報告書を提出し、「身の回りの不適切ケア、身体拘束の該当例、学んだこと」などを記入して意識付けしている。年1回接遇研修を行い、スピーチロックにならない声かけに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の研修会の開催にて職員としての意識、責務を説明し、未然に高齢者虐待を防ぐ取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修に参加し対応できるように努めている。又その内容を他職員と共有できるように努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ず重要事項説明書にて説明を実施し、同意をいただいたうえで、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時など家族から意見を聞き取り、管理者や職員は運営に活かすよう努めている。	家族が利用者に必要な物を届ける時や電話で意見・要望を聞いている。リモート面会のほかに、10月から相談室とエントランス間にパーティションを設けて面会してもらっている。利用者個々の写真・コメントと行事カレンダーを毎月家族に送付し、LINEで写真を送って意見をもらっている。意見に沿って、駐車場に停車ラインを引く予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(2階 / 2ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年二回職員との面談の機会を設けている。また、適宜必要時に面談を実施している。運営に関しての意見も求め、活かせるように努めている。	日常や毎月のフロア会議、年2回と随時の面談などで職員の意見を聞いている。居室・各クレーション・備品発注・おむつ管理・調理・ブログなどの担当を設け、職員は役割分担して運営に関わっている。働き易さ改革として、職員の意見を基に設備改善を行い、床のワックスがけや風呂の排水管の水づまり修繕を行う予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の自己評価を実施し上司による評価の実施と面談の機会を使い向上出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修への参加や施設内研修の実施にて職員の質の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	箕面市の事業所連絡会への参加がコロナウイルスの影響にて開催されておりません。令和3年12月より再開の連絡を受けています。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後は利用者の不安や要望に耳を傾け安心してお過ごしいただける様、関係づくりに取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(2階 / 2ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談、面談の機会で聴取を行い一緒に課題に取り組めるように努めております。又、LINEなどを活用し情報共有をさせて頂いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お困りごと等の課題をお聞きし、当施設でご利用頂くべき内容かの検討と適切な提案を心掛けております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で行うことを、出来るだけ本人の意向に寄り添い出来るように努めております。一つの家族という考えを職員に伝えております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではありますが、リモート面会、ガラス越しの面会、ビニールカーテンドアを活用。日々のご様子をLINE等のツールにて行っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではありますが、ご家族様への声掛けを実施しています。	入居時に利用者・家族から馴染みの関係を聞いて「面談記録用紙」に記入し、入居後は申し送りノートや介護計画に記入して職員間で共有している。コロナ禍のため、馴染みの人や場所との関係継続は困難になっている。携帯電話を所持している利用者もあり、馴染みの友人からの電話は家族の了解を得て繋いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(2階 / 2ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士でコミュニケーションが取れるよう職員が間に入り、レクリエーション、食席や余暇の時間を過ごせるように努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も介護支援専門員との連携も継続しているため、必要に応じ相談、支援は継続して行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には本人の意向を確認実施。困難な場合は家族と相談しながら、本人、家族が望む生活の実現に努めています。	日常的に把握した利用者の意向は、アセスメントシートや申し送りノートに記入して職員間で共有している。意向を表出しにくい人は良く観察しながら、例えば、食事の好み・形態や食器の持ち方・高さなどを把握している。月2回の喫茶レクリエーションでは好きなメニューを選んでもらい、昔懐かしいテレビドラマのビデオを見てもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前に本人の生活歴、趣味など現在に至るまでの経緯などの情報を聞き取っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活習慣を出来るだけ継続できるように努めており、健康面での変化は主治医や看護師、理学療法士と連携しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(2階 / 2ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多職種連携にて家族、主治医、看護師、理学療法士等とサービスに関しての意見を求めプランに反映させる	業務日誌・介護記録・フロア会議録などを基に、利用者・家族の要望を聞き、医師・看護師・理学療法士の意見も取り入れて、長期目標6か月・短期目標3か月の介護計画を作成している。計画は3か月にモニタリングし、サービス担当者会議(施設長・管理者・ケアマネジャー・サブリーダー・介護職員数名が参加)を開いて3か月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子をケアファイルに記録し居室担当者と上席者を中心に他職員と意見交換などを行いプラン見直しの際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍とはいえできるだけ、敷地内の散歩が出来るような取り組みや、直接面会出来ないがガラス越しでの面会を実施させて頂いております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握が十分にできていないが、出来る限り安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望に沿えるよう支援し往診医と連携している。	利用者・家族の納得と同意を得て、協力医院の内科(全員月2回)と歯科(希望者が週1回～月2回及び適時)の訪問診療を受けている。整形外科・婦人科の受診は家族が同行し、受診内容を聞き取って個人記録に纏めている。併設のデイサービスセンター・有料老人ホームの常駐看護師2名による健康チェックを得て、安心できる医療体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(2階 / 2ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護師と連携を取り、利用者個々に合わせた適切な看護や医療が提供できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い病状の確認。退院時にはカンファレンスを行っていただくよう関係づくりに努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状況に合わせ、今後の支援の方向性を家族、医師、看護師、介護、計画作成担当で話し合いチームとしてケアに取り組んでおります。	入居時に「重度化した場合における(見取り)の指針」文書で説明して同意書を交わし、本人・家族の意向を確認している。重度化には「急変時の対応について」(搬送・延命措置の確認)の文書と主治医から状態説明を行い、終末期における支援内容や治療方法の要望について話し合っており取り組んでいる。今年度は4名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度は心肺蘇生などの救急対応の研究を実地しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の同法人との連携、仕組みの構築をしております。また災害マニュアルの周知をしております。	年2回(内1回は消防署立ち合い)昼間・夜間想定防災訓練を、併設のデイサービスセンター・有料老人ホームと合同で行っている。居住空間が2・3階で、各居室の掃き出し窓からベランダに出られ、一時避難場所に適している。備蓄品の準備と地域との協力体制が課題となっている。	風水害や地震などあらゆる災害を想定した避難方法・誘導を施設全体で話し合い、それに基づいた訓練を実施し、非常時の備蓄品内容と保管場所の確保を検討すると共に、地域への協力の呼びかけを推し進めることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(2階 / 2ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を確保するために、研修を実施。又接遇の研修も実施している。	接遇・人権研修を各々年1回を行い、利用者の立場を尊重し思いやりを大切に、その人に寄り添ったケアを心がけている。話しかけの際は声のトーンや距離間を意識し、呼称は「さん」付けで行っている。トイレ・浴室のドアの開閉を気配りし、ドア前のカーテンを利用して羞恥心への配慮を徹底している。個人情報書類・薬剤は適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護側の都合とならないように、利用者の思いを聞き取る、くみ取るよう意識付けしております。喫茶を開催しメニューを作成しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の習慣をくみ取りながら、その人らしい生活が出来るように、個別ケアに取り組んでおります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みのものをご用意して頂けるよう依頼をかけた、日々の中で好みの服を着ていただけるように努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	あと片付けを一緒に頂いたり、手作り昼食を盛り付けて頂いたり、食事レクレーションにてケーキを作って頂いたり食事を楽しんでいただけるよう支援している。	栄養管理士の献立で建物1階の厨房で調理した物を提供している。週2回は職員が交代で手作りの食事を各ユニットで作、音・匂いを感じながら食事を楽しみ、利用者はできる範囲の盛り付け・洗い物を行っている。外出に出かけることが困難な現在は、利用者の好みを取り入れた出前(握り寿司・ハンバーガー)を利用する時もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(2階 / 2ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせ、多職種連携を図り実施しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者に合わせたケアを行い週一回訪問歯科からのアドバイスや利用者のケアを実施しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせながら、出来るだけトイレに行ける環境、体制を構築しております。	排泄チェック表と個々のパターンを把握して、日中はオムツ使用者(3名)以外はトイレでの排泄支援を行っている。夜間はオムツ使用者が6名となり、それぞれの身体機能や習慣を考慮して、ポータブルトイレの利用やパッドの厚さに留意して、睡眠を重視した排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師ともに常に連携を取り、必要に応じて薬の調整を実施しております。散歩に出かけたり便秘解消に向けた運動に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっておりますが午後中心の入浴となっております。その中で本人の意向に合わせご案内させて頂いております。	週1~2回の入浴を基本とし、午前・午後の時間帯は希望に沿っている。浴槽の湯は一人ずつ交換し、ゆず・菖蒲湯の季節湯を楽しんでいる。今夏より職員の退職が相次いで人員に余裕が無く、これまでの入浴支援が難しい昨今はシャワー浴・清拭が多くなり、シフトや他のケア(手作り食事など)内容を見直して、入浴支援の充実を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(2階 / 2ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるように習慣に合わせて支援させて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医、家族様との連携を図り看護師のアドバイスを受けながら実施しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として水やり洗濯物のたたみなど生活の中に活躍の場を提供し支援しています。また好みの飲み物を選んで頂き提供しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍である為敷地外への外出は禁止させて頂いております。ご希望に合わせて敷地内の散歩は実施しております。	コロナ禍で外出を控え、玄関前の駐車場や敷地内を散歩し、プランターの花を眺めたりゴミ出し時や玄関横のベンチで日光浴・外気浴を味わい、ストレス発散の機会を設けている。コロナ対策緩和時期に車で桜見物に出かけて楽しんだ。コロナ収束後は、外食レクリエーションや近くの図書館へ出かけるなど、外出の幅を広げたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては事業所管理としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(2階 / 2ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用はご自身で管理して頂き、事業所の支援は実施していないが、使用できているかの確認は実施しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔かつ、光、音、温度、湿度で適切となるよう安心して生活できるように努めております。	日に4回の消毒と、温度・湿度・換気の調節を行っている。リビング兼食堂は南側の大きな窓からの採光も良い。壁面に職員と一緒に作った季節の貼り絵と飾りつけ(クリスマスのレイアウト)や誕生月の利用者の顔写真があり、温かい雰囲気となっている。各ユニット入口に、毎月の生け花レクリエーションで活けた花を飾り、テレビ前にソファを設けて個別で寛げるスペースを施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別に居場所が確保できるように配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたもの、なじみの物をご用意して頂き安心して心地よく過ごせるように配慮しております。	居室入口に事業所名(ロ・スカーロ=寄港地)に因んだ日本の港名と各自の表札を掲げ、これまでの馴染みの物(タンス・小物・写真など)を持ち込み、その人らしい過ごしやすい居室となっている。ベッド・洗面台・クローゼットなどが設置され、安全面に配慮して家具の配置と動線確保を行い、居心地良い居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力に合わせてできる限り残存機能を活かしながら必要な支援を提供している。		